

あいち小児保健医療総合センター保健センターでは、平成13年11月のオープン時より、県民の育児不安を軽減し、県民の健やかな子育てを目的に、時間外電話相談「育児もしもしキャッチ」（以下、「育児もしもしキャッチ」）を開設している。

開設当初は、月曜日から金曜日まで開設していたが、当センターの外来診療日の変更に伴い、平成15年5月より火曜日から土曜日に相談日を開設している。

「育児もしもしキャッチ」

主な相談内容	母子健康手帳を活用する年齢層の母等を対象に、健康や育児について
開設日時	火曜日から土曜日 午後5時から午後9時まで（4時間）
相談担当者	保健師、助産師、看護師等の専門相談員が、毎回2～3人で対応
相談体制	当センターの保健師1名が相談終了まで勤務する体制をとり、困難な相談への助言、連携の必要なケースを地域に繋ぐ役割等、相談員をバックアップしている。
相談記録の記載方法	相談は原則匿名としているが、相談終了時に相談者の住所、相談経路は聞いている。電話相談員が相談記録を記載し、予め設定されている「相談内容分類コード」に従い内容の分類を行っている。

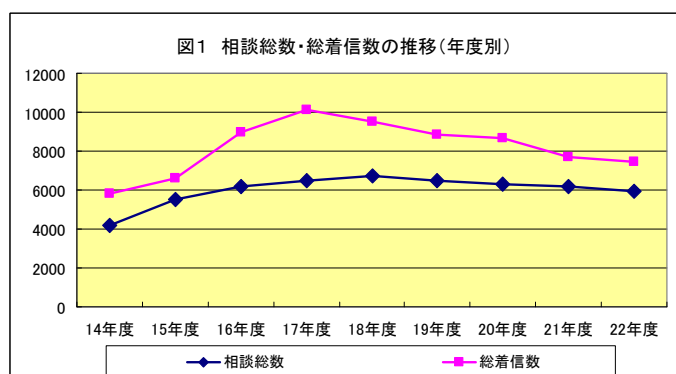
【分析対象・方法】

平成22年4月1日から平成23年3月31日までに寄せられた相談情報を保健部門のシステムに入力し、地域別利用数や相談者、相談時間、相談内容等に注目して分析した。

【結果】

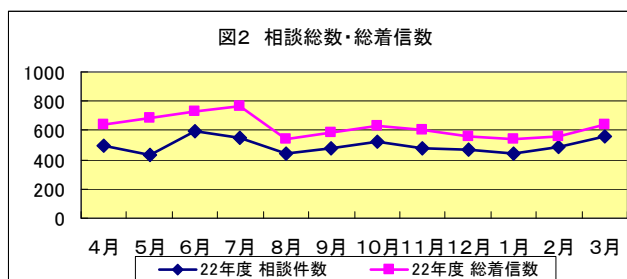
1 相談総数・総着信数について期間中の相談総数は5,960件、総着信数（電話に応答中のため応答できなかった件数をあわせたもの）は7,663件であった。相談件数は昨年度より233件減少しているが、平成14年度からの相談総数の推移をみると、開設から平成18年度まで増加したものの、その後は漸減から平準状態となっている。

未着信は1,510件で昨年度の1,550件より40件減少しており、平成17年度をピークに減少してきたが、依然として県民のニーズを充足できていない状況が続いている（図1）。



相談件数の総数は、繰り返し電話をかけてくるリピーター相談者からの件数の推移とほぼ同じ傾向を示していること（後述）と関連があると推測される。また対応不能件数の減少は、平成 19 年度より名古屋市が「子どもあんしん電話相談」を開設したことも関連すると推測される。

月別の相談総数・総着信数の推移は、図 2 のとおりである。5 月の稼働日数は 18 日、6 月、7 月は 22 日と稼働日数により相談件数は増減するが、昨年度と比較しても、ほぼ同様の件数の推移であった。



2 地域・経路について

(1) 利用者の居住地について

相談者の居住地が把握できた 5,747 件を分析した。相談は県下ほぼ全域から寄せられおり、市町村別では、名古屋市からの相談件数が 1,086 件と最多で、豊田市、一宮市、安城市、岡崎市、豊橋市と続いた。出生 1,000 に対する割合をみると、最も高いのは弥富市の 273.4 であるが、頻回相談者と思われるケースが居住地しているためと考えられる。それ以外では、津島市 231.8、次いで近隣の大府市 181.2、常滑市 150.8、東海市 148.8 の順で高率であった（資料：表 1）。

(2) 経路について

相談全体では「利用経験あり」が 50.8% で最も多かった。「利用経験あり」は相談を開設した平成 14 年度（平成 13 年 11 月から 15 年 3 月、以下同じ）は 2.2% であったが、その後年々増加し、平成 18 年の 54.2% をピークに減少の傾向を示している。初回相談者は市町村（保健福祉）からが 12.5%、母子手帳からが 11.9% で初回相談者の半数を占めていた。これには、市町村等に「案内カード」の配布の協力を得ていることが役立っている。インターネットの普及からホームページからの割合もわずかではあるが増えており、県外からの相談のうち 12 件（18.0%）を占めている。（資料：表 2）。

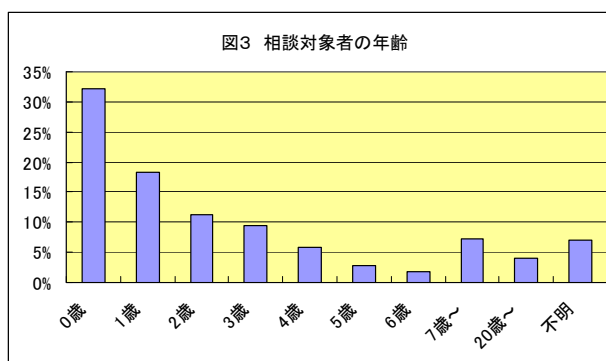
なお、「案内カード」については、名古屋市を含む県内 57 市町村（平成 22 年 4 月現在）中、27 市町村（47.4%）が母子手帳交付時に、19 市町村（33.3%）が乳幼児健診で全員に配布されており、その他自由に持ち帰ることができるよう設置してある等、全市町村で活用されている。また、本年度は、視覚障害者の方にも周知ができるよう、「音声コード付の案内カード」を作成し、全市町村に配布して活用を促している。

3 相談者・相談対象者について

相談記録では、相談者（電話をかけてきた人）の続柄を相談対象者との関係から本人、母、父、配偶者、祖父母等、兄弟、専門家、その他と分類しているが、母からの相談が 91.7% と最も多かった。（資料：表 3）。

相談対象者は「子ども」が5,652件（94.8%）で最も多く、「孫、姪、甥」の23件（0.4%）を加えた「子ども」の相談は5,675件（95.1%）であった。「母本人」の相談は256件（4.1%）であり、経年的にみてもほぼ4%前後の割合で相談されている。（資料：表4）。

相談対象者の年齢では、0歳が28.2%と最も多かったが、不明が多かったことを踏まえてみても、昨年度までの40%以上を下回る割合であった。0歳に次いで、1歳が19.5%、2歳が12.8%と、年齢が増えるに従い減少していた（図3）。



4 相談の時間帯・所要時間・曜日について

(1) 時間帯・所要時間について

相談の時間帯は19時台1,549件（26.0%）と最も多く、次いで17時台が1,480件（24.8%）であった。

相談の所要時間は、15分未満が4,692件78.7%で、そのうち5～14分が5割強を占めていた。1回の相談の平均所要時間は分であった。最長の相談は分であった（資料：表5）。

(2) 曜日について

曜日別に1日あたりの相談件数をみると火曜日25.8件、水曜日25.3件、木曜日26.9件、金曜日が23.8件、平成15年5月から開設している土曜日の相談総件数が1,077件（1日平均21.1件）と少ない。（資料：表6）。

5 相談内容について

(1) 相談内容について

相談員が相談記録作成時に分類した相談内容では、「育児相談」が5,707件（95.8%）と圧倒的に多く、次いで女性の心と体の相談118件（2.0%）が年々増加してきており、母性相談95件（1.6%）の割合を抜いて2番目に多かった（資料：表7）。

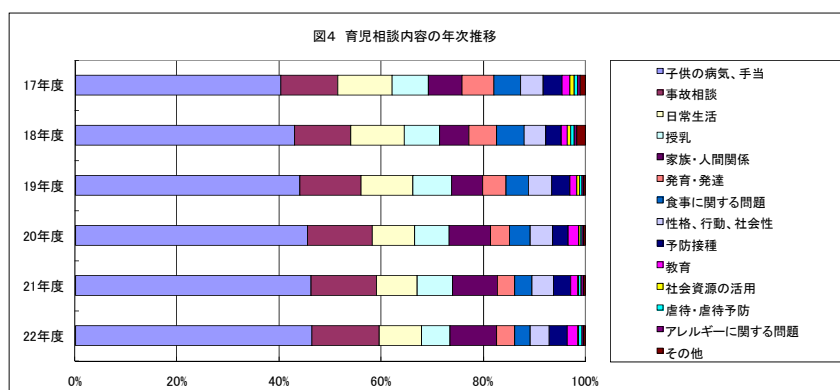
「育児相談」5,707件の内訳は「子どもの病気、手当て」が2,660件（46.6%）と最も多く、次いで「事故相談」の764件（13.4%）、「日常生活」の473件（8.3%）、「家族・人間関係」462件（8.1%）であった。

曜日別では、土曜日の「子どもの病気、手当て」の相談の割合59.4%は他の曜日の平均42.9%と比べ16.5%高く、「家族・人間関係」は他の曜日の平均8.7%と比べ4.7%と4.0%も低く、土曜日は他の曜日と相談内容の構成が異なる（資料：表8）。

(2) 育児相談の内容について

育児相談5,707件の主な内容について資料：表9に示した。

過去6年間の育児相談内容の推移から、日常生活、授乳、食事などの子の世話の部分が減少しており、育児相談の内容の変遷の様子が伺われる(図4)。



1) 「子どもの病気、手当で」2,660件(46.6%)

現在起きているかぜや消化器、皮膚症等について、具体的な手当でのアドバイス、受診の要否についての相談が多かった。

(相談例)

- ・ 2 か月児、口で息をしていて苦しそうだ。ミルクもいつもより飲みが少ない。40~100cc。熱は37.1℃でくしゃみと咳がある。受診させるべきか。
- ・ 3 か月児、発熱38℃ある。受診から帰宅したところ。鼻風邪と言われたが入浴はどうしたらよいか聞くのを忘れた。
- ・ 4 か月児、首のしわに沿って汗疹ができて赤くなっている。痒がったりぐずることはないが何か対処方法はあるか。
- ・ 5 か月児、朝から便が緩い。2回目以降は下痢様。熱は37℃で機嫌はそれほど悪くはない。現在、ミルク量が減った受診すべきか?
- ・ 7 か月児、昨日39.3℃に発熱。突発性発疹の診断。本日、まだ熱があり機嫌が悪い。先ほどからは泣きやまず直母しても泣く。どうしたらよいか。
- ・ 4歳児、今、けいれんを起こした。熱は38.9℃で3分間ほどのけいれんであった。落ち着いたが目がうつろで傾眠。

受診するべきかどうかの判断を求めてくる相談が多い。「どのような状態になったら時間外受診してよいのか?」など、判断に迷う母親の不安に答えている。また、「受診し服薬はしているが、すぐに改善しない。」「処方された薬をこのまま飲ませてよいか」など、受診後、回復してくるまでの見守りが不安な保護者からの相談も多く聞かれる。

電話で受診の要否を判断することは難しい。症状や受診状況等を出来るだけ冷静かつ具体的に質問することで、保護者に観察のポイントとしての理解を促し、互いに総合的な判断と対応ができるよう働きかけるとともに、相談員間での症例の共有や相談員連絡会での学習等も心がけている。

2) 「事故相談」764件(13.4%)

「誤飲・誤嚥」が283件(37.0%)と最も多かった。また、事故相談全体で1歳未満の子どもについての相談が244件(31.9%)を占めている。

【誤飲したもの】

食品（古い食べ物、アルコール等）	50件
文具類（紙類、ビニール、風船、クレヨン、糊など）	41件
医薬品（消毒薬、軟膏、錠剤等）	32件
プラスチック（包装用品、玩具の一部等）	32件
洗剤	22件
生活用品（化学製品、防虫剤等）	19件
生活用品（非化学製品）	17件
たばこ	13件
電池	4件

・「食品」の0歳児では「蜂蜜をなめさせてしまった。」「離乳食で食べさせたものが喉に詰まった。」があがっており、食事の形状に注意が必要である。1歳以降では、「生肉を食べた。」「魚の骨が刺さった。」「果実の種」「鉛がつまった」等であった。

・「医薬品」では0歳、1歳児で「軟膏類を舐めた」が多く、「大人、上の子の薬を飲んだ」等過剰摂取になったものが多かった。

・「たばこ」では、ジュースのビンに入っていた吸殻水を飲んだ7歳児、2cm程度食べた10か月児の2例には即受診を勧めた。

・「転倒」は、居間での転倒が71件(56.0%)と多く、道路、風呂と続く。

・「転落」は147件(19.2%)で椅子、家具、階段の順であった。

事故相談時には、『ひやとした』気持ちを受け止め、発達段階に応じた今後の事故の再発防止について伝えている。

3) 「家族・人間関係」462件(8.1%)

「育児不安」が331件(71.6%)で最も多く、次いで多いのは「家族内の人間関係」「近所との付き合い」と続いている。

じっくりと子どもと関わる時間や気持ちの余裕がなく、叱りつけてしまったことでの自責の念に駆られていたり、子どもが年齢相当の行動をしているにもかかわらず、母は年齢以上の理解や行動を子どもに期待してしまい、イライラを募らせている様子が相談内容から伺われた。核家族で、忙しい夫と共有することもできず、他人と話す機会も持たず、孤立感を強くしている家庭も多く見受けられる。育児電話相談では、母の話に耳を傾け、大変さに共感し、頑張りを認める役割があると思われる。

「家族・人間関係」では、248件(53.7%)が「利用経験あり」の方で、そのうち7歳以上の子を持つ親からの相談が149件(42.1%)であった。子どもが大きくなっても、子育ての大変さや不安はとどまることがない。正解のない育児の中で戸惑う親たちの気持ちを聞くところは少なく、親子の関係性を良好に保つためにも時間外電話相談は役立っている。

4) 「日常生活」473件(8.3%)

「泣き」についての相談が141件(29.8%)と最も多く、「睡眠」が58件(12.3%)、

「トイレトレーニング」42件（8.9%）と続く。

（相談例）

- ・ 2 か月児、泣き方が激しくなった。風呂の前後にすごく泣く。4 時間毎、泣いたら授乳。まだ、しっかりと授乳のタイミングがわからない。
- ・ 6 か月児、ミルクを飲んですぐに寝るのに夜泣きがすごい。
- ・ 1 歳児、一日中ぐずっている。TVを見せていれば機嫌が良いが、家事をしている母の足にしがみつき、抱っこをせがんで困る。

『泣く』という子どもの行動から要求を読み取り、適切に対応することは大変難しくストレスを伴う。電話口から、子どもの大きな泣き声がすることも少なくない。児が泣いている理由をわかってあげられない自分が責められているようにさえ思えることがあるという。子ども向きあい、根気が必要である『泣き』の対応、しつけ、トイレトレーニング等日常生活の相談が、年々、減少する傾向にあることは、大変きにかかるところである。逆に相談者においては、一心に頑張っているからゆえの相談であると捉えられる。疲弊し自分の育児に自信が持てなくなっている母に、相談員はまず母の話をゆっくり聴き、労うこと相談を始めている。

5) 「授乳」325件（5.7%）

昨年度405件（6.6%）に比べ80件減少している。「授乳方法」に関する相談が95件（29.2%）と多く、内容は授乳間隔や回数、授乳量のムラ、離乳食との併用量に関するものが主であった。生後10月から1歳5か月まで、さまざまな月齢の児の「飲まない」「飲みすぎる」「飲んでも寝ない」「飲まずに寝てしまう」等の相談があり、子どもの発育状況、成長に合わせた授乳方法についての情報をできるだけ具体的に伝えることで母の不安の解消に努めている。

また、授乳に関する「その他」として、『授乳と薬』『母の病気と授乳』が53件（16.3%）あり、体調が悪い中、授乳でも悩む母のつらさが伺われる。大変さの受容とねぎらいとともに、明確な判断が求められる。科学的根拠に基づき、大半の薬剤が母の体調を優先してよいことを適切に助言できるよう、相談員全員に手引書を配布し、外部からの講師を招いて相談員研修会を実施し相談の質の向上を図っている。

（相談例）

- ・ 1 か月児の母、インフルエンザの予防接種を受けた。授乳も大丈夫か。
- ・ 9 か月児の母、風邪をひき受診、5 日分の風邪薬をもらったが授乳は1 週間禁止と言われた。離乳食は現在2 回食、ミルクを飲まないので困る。
- ・ 3 か月児の母、母乳保育しているがイライラして産婦人科でもらった安定剤を服用した。今、ミルクを飲ませたが、母乳はいつから飲ませられるか？

6) その他

「虐待・虐待予防」は31件（0.5%）であり、昨年度よりも増加している。「叩いてしまう自分の行動がエスカレートしてってしまうのでは」という心配を抱え、それでも止まらない気持ちを話す場として活用されている。母たちの背景に精神科に通院や、自身に被虐待歴のあるもの、DV被害、夫の育児協力がなくもしくは母子家庭であり、児の側は発達障害があるなど、家庭環境に課題を抱える育児支援が必要なものばかりであった。

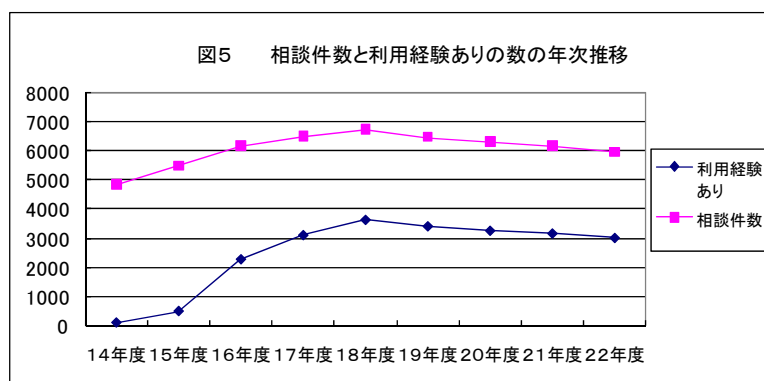
匿名による相談のため、まずは相談者の訴えを受け止め、相談できたことを高く評価することを基本にしている。必要と思われる場合は地域の相談機関を挙げて、訪問や面接相談などを強く勧めている。

6 相談結果について

電話相談は原則匿名で1回の相談での終了が前提となっているため、利用経験がある方も継続支援とはしていない。しかし緊急性が高く、地域での支援が必要と思われるケースについては、居住地、氏名について聴取し、同意を得た上で地域の保健機関等への情報提供を行っている。

7 まとめ

- 1) 相談件数は18年度をピークにわずかながら減少傾向にあるが、詳細に見てみると、18年度には、「利用経験あり」が3,652件（54.2%）であったが、その後徐々に減少し、本年



度は3,027件（50.8%）と600件余り減少が主な要因であり、相談件数は約6,000件とほぼ横ばいの状況である（資料：表5、図5）。

未着信数は1,510件と平成17年度（3,659件）、平成18年度（2,776件）に比べると減少しているが、なお時間外電話相談に対するニーズを満たすには至っていない。

- 2) 時間外電話相談利用者は母がほとんどであった。相談内容の中には、日中、身近な地域の相談窓口で対応したほうが実際的、継続的な指導ができると考えられる内容もあった。しかし、匿名であることや相談したいと思った時にすぐ相談できるのが電話相談の良さでもある。その特徴からも、この相談での内容は、今の育児の問題の凝縮されたものであると認識している。また、この相談はどこにしたらよいか迷いながら電話をかけてくる母も多く、相談機関の紹介や利用方法を伝える場となっている。必要なケースについて

は、市町村へ情報提供をしながら、連携を常に意識した相談体制の整備を心がけていきたい。

3) 相談全体では「利用経験なし」が 2,933 件 (49.2%)、「利用経験あり」が 3,027 件 (50.8%) であった。主な相談を利用経験の有無で比較すると「育児不安」で 78.0%、「家族人間関係」で 71.1% が「利用経験あり」と高くなっていた。「病気の手当て・対応」や「事故相談」ではわずかに「利用経験なし」が多かったが差は殆んどなかった。利用経験ありの割合が高い相談は 1 回の相談で解決に至らないため繰り返しの相談利用となっていると思われる。また初回相談で良い印象を得た利用者がまた何か心配事ができた時にこの電話相談を利用していると相談を実施している中で感じている。今後も 1 つ 1 つの相談を丁寧に対応できるよう電話相談員の研修等を通じて病気やけがの対応に関する知識や、傾聴について技術の向上を図っていきたい。

表1 市町村別の利用状況

資料

	市町村	件数	出生 1,000対	H21 出生数		市町村	件数	出生 1,000対	H21 出生数
1	名古屋市	1,086	54.3	20,005	30	小牧市	52	37.9	1,372
2	豊田市	333	78.6	4,239	30	江南市	52	61.0	853
3	一宮市	291	83.0	3,508	30	長久手町	52	78.4	663
4	安城市	272	132.4	2,054	33	東浦町	51	118.1	432
5	岡崎市	259	67.9	3,813	34	みよし市	51	73.3	696
6	豊橋市	207	58.8	3,522	35	尾張旭市	42	55.8	753
7	刈谷市	198	113.3	1,748	35	大治町	42	116.7	360
8	大府市	183	181.2	1,010	37	愛西市	38	81.9	464
9	東海市	178	148.8	1,196	38	新城市	36	116.5	309
10	春日井市	164	53.1	3,091	39	高浜市	35	72.5	483
11	半田市	141	129.7	1,087	40	田原市	32	56.7	564
12	西尾市	136	130.3	1,044	41	犬山市	29	49.0	592
13	日進市	130	137.9	943	42	武豊町	27	67.8	398
14	稲沢市	124	107.2	1,157	43	吉良町	24	124.4	193
15	津島市	121	231.8	522	44	蟹江町	23	64.1	359
16	弥富市	114	273.4	417	45	幸田町	21	50.1	419
17	知多市	104	136.5	762	46	豊山町	19	115.9	164
18	知立市	103	142.7	722	47	扶桑町	14	36.2	387
19	豊川市	93	54.1	1,720	48	南知多町	11	101.9	108
20	清須市	88	129.4	680	49	大口町	10	42.2	237
21	あま市	86	104.1	826	50	美浜町	9	60.0	150
22	豊明市	81	140.9	575	50	一色町	9	49.2	183
23	瀬戸市	82	86.4	949	50	幡豆町	9	113.9	79
24	常滑市	73	150.8	484	53	阿久比町	7	32.3	217
25	碧南市	67	100.3	668	54	飛島村	3	81.1	37
26	蒲郡市	66	101.4	651	55	東栄町	1	76.9	13
27	北名古屋市	64	69.3	924	56	設楽町	0	0.0	30
28	東郷町	63	142.5	442	57	豊根村	0	0.0	6
29	岩倉市	53	108.6	488	57	県内不明	21	0.5	45,747
						愛知県下(含名古屋市)	5,680	86.4	65,752
						他県	67		
						不明	213		
						合計	5,960		

表2 年度別経路

経路	利用経 験あり	市町村 (保健福 祉)	母子健 康手帳	医療機 関	保健所	友人・ 知人	ホーム ページ	子育て支 援 センター	院内	幼稚園・ 保育園 等	学校	児童相 談セン ター	その他	不明	計
14年度※	105 (2.2)	2492 (51.4)	128 (2.6)	328 (6.8)	475 (9.8)	66 (1.4)	25 (0.5)	37 (0.8)	53 (1.1)	52 (1.1)	3 (0.1)	19 (0.3)	155 (3.6)	908 (18.7)	4846 (100.0)
15年度	501 (9.1)	2,500 (45.6)	322 (5.9)	63 (1.1)	667 (9.8)	113 (2.1)	36 (0.7)	16 (0.3)	8 (0.1)	667 (12.2)	49 (0.9)	16 (0.4)	204 (3.7)	430 (7.8)	5,488 (100.0)
16年度	2290 (37.1)	1414 (22.9)	517 (8.4)	377 (6.1)	565 (9.1)	119 (1.9)	74 (1.2)	35 (0.6)	80 (1.3)	21 (0.3)	5 (0.1)	10 (0.2)	220 (3.6)	448 (7.3)	6,175 (100.0)
17年度	3,124 (48.2)	854 (13.2)	661 (10.2)	303 (4.7)	376 (5.8)	102 (1.6)	76 (1.2)	24 (0.4)	69 (1.1)	19 (0.3)	11 (0.2)	7 (0.1)	175 (2.6)	677 (10.4)	6,478 (100.0)
18年度	3,652 (54.2)	821 (12.2)	611 (9.1)	343 (5.1)	340 (5.0)	118 (1.8)	81 (1.2)	43 (0.6)	32 (0.5)	6 (0.1)	4 (0.1)	9 (0.1)	121 (1.8)	554 (8.2)	6,735 (100.0)
19年度	3,429 (53.0)	821 (12.7)	666 (10.3)	379 (5.9)	387 (6.0)	120 (1.9)	112 (1.7)	35 (0.5)	45 (0.7)	7 (0.1)	2 (0.0)	4 (0.1)	52 (0.8)	412 (6.4)	6,471 (100.0)
20年度	3,276 (52.0)	796 (12.6)	665 (10.6)	315 (5.0)	383 (6.1)	80 (1.3)	129 (2.0)	40 (0.6)	35 (0.6)	3 (0.0)	3 (0.0)	3 (0.0)	74 (1.2)	492 (7.8)	6,294 (100.0)
21年度	3,180 (51.7)	832 (13.5)	725 (11.8)	297 (4.8)	382 (6.2)	84 (1.4)	135 (2.2)	23 (0.4)	13 (0.2)	7 (0.1)	4 (0.1)	3 (0.0)	52 (0.8)	416 (6.8)	6,153 (100.0)
22年度	3,027 (50.8)	743 (12.5)	711 (11.9)	240 (4.0)	385 (6.5)	68 (1.1)	122 (2.0)	27 (0.5)	9 (0.2)	8 (0.1)	4 (0.1)	4 (0.1)	41 (0.7)	571 (9.6)	5,960 (96.9)

※13年11月から15年3月までの集計値

表3 相談者の続柄

相談者続柄	件数	
母	5,468	91.7%
本人	257	4.1%
父	133	2.1%
祖父母等	27	0.4%
配偶者	23	0.4%
きょうだい	0	0.0%
専門家等	0	0.0%
その他	5	0.1%
不明	47	0.7%
合計	5,960	100.0%

表4 相談対象者

	件数	
子ども	5,652	94.8%
本人	256	4.1%
孫・甥・姪等	23	0.4%
配偶者	10	0.2%
きょうだい	0	0.0%
患者等	0	0.0%
その他	2	0.0%
不明	17	0.3%
総計	5,960	100.0%

表5 時間帯と所要時間

所要時間	17時台	18時台	19時台	20時台	不明	合計
5分未満	309 20.9%	352 24.7%	465 30.0%	413 27.8%	5 20.8%	1,544 25.9%
5～14分	782 52.8%	731 51.3%	810 52.3%	812 54.8%	13 54.2%	3,148 52.8%
15～29分	256 17.3%	234 16.4%	175 11.3%	189 12.7%	2 8.3%	856 14.4%
30～44分	99 6.7%	82 5.8%	70 4.5%	53 3.6%	0 0.0%	304 5.1%
45～59分	23 1.6%	17 1.2%	22 1.4%	13 0.9%	0 0.0%	75 1.3%
60分以上	11 0.7%	8 0.5%	7 0.5%	3 0.2%	4 40.0%	33 0.5%
全体	1,480 24.8%	1,424 23.9%	1,549 26.0%	1,483 24.9%	24 0.4%	5,960 100.0%

表6 曜日別状況

件数(平均件数)

	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	月曜日	全体
H15年度以前	2,802 19.3%	3,162 21.8%	3,341 23.1%	3,037 21.0%	502 3.5%	1,684 11.6%	14,492 100.0%
H16年度	1,264 20.5%	1,423 23.0%	1,349 21.8%	1,277 20.7%	862 14.0%		6,175 100.0%
H17年度	1,359 21.0%	1,438 22.2%	1,349 20.8%	1,267 19.6%	1,065 16.4%		6,478 100.0%
H18年度	1,289 19.1%	1,425 21.2%	1,506 22.4%	1,320 19.6%	1,195 17.7%		6,735 100.0%
H19年度	1,221 18.9%	1,480 22.9%	1,395 21.6%	1,262 19.5%	1,113 17.2%		6,471 100.0%
H20年度 (1日平均件数)	1,160 (27.6) 18.4%	1,365 (27.9) 21.7%	1,406 (27.6) 22.3%	1,223 (24.5) 19.4%	1,137 (22.3) 18.1%		6,294 (25.9) 100.0%
H21年度 (1日平均件数)	1,159 (27.0) 18.8%	1,321 (27.5) 21.5%	1,301 (27.1) 21.1%	1,255 (24.6) 20.4%	1,117 (21.9) 18.2%		6,153 (25.5) 100.0%
H22年度 (1日平均件数)	1,163 (25.8) 19.5%	1,239 (25.3) 20.1%	1,290 (26.9) 21.0%	1,191 (23.8) 19.4%	1,077 (21.1) 17.5%		5,960 (24.5) 96.9%

相談分類	件数	
育児相談	5,707	95.8%
母性相談	95	1.6%
女性の心と体の相談	118	2.0%
思春期相談	9	0.2%
その他	31	0.5%
合計	5,960	100.0%

表8 育児相談の曜日別状況

内容	全体		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
子供の病気、手当	2,660	46.6%	473	42.9%	507	39.3%	589	47.1%	479	42.2%	612	59.4%
事故相談	764	13.4%	144	13.1%	174	13.5%	175	14.0%	154	13.6%	117	11.4%
日常生活	473	8.3%	103	9.3%	98	7.6%	91	7.3%	115	10.1%	66	6.4%
授乳	325	5.7%	56	5.1%	75	5.8%	73	5.8%	73	6.4%	48	4.7%
家族・人間関係	462	8.1%	101	9.2%	116	9.0%	108	8.6%	89	7.8%	48	4.7%
発育・発達	202	3.5%	58	5.3%	42	3.3%	36	2.9%	45	4.0%	21	2.0%
食事に関する問題	167	2.9%	32	2.9%	34	2.6%	33	2.6%	38	3.4%	30	2.9%
性格、行動、社会性	218	3.8%	54	4.9%	46	3.6%	53	4.2%	39	3.4%	26	2.5%
予防接種	241	4.2%	52	4.7%	52	4.0%	45	3.6%	50	4.4%	42	4.1%
教育	118	2.1%	20	1.8%	25	1.9%	34	2.7%	31	2.7%	8	0.8%
社会資源の活用	14	0.2%	0	0.0%	4	0.3%	3	0.2%	6	0.5%	1	0.1%
虐待・虐待予防	31	0.5%	8	0.7%	5	0.4%	8	0.6%	5	0.4%	5	0.5%
アレルギーに関する問題	24	0.4%	2	0.2%	7	0.5%	3	0.2%	7	0.6%	5	0.5%
その他	8	0.1%	0	0.0%	4	0.3%	0	0.0%	3	0.3%	1	0.1%
計	5,707	100.0%	1,103	100.0%	1,189	92.1%	1,251	100.0%	1,134	100.0%	1,030	100.0%

表9 育児相談(5,707件)の主な内容

	①	件数	②	件数	③	件数	④	件数
	子供の病気、手当	2,660 (46.6%)	事故相談	764 (13.4%)	日常生活	473 (8.3%)	家族・人間関係	462 (8.1%)
主な内容	かぜの症状	927	誤飲・誤嚥	283	泣き	141	育児不安	331
	消化器症状	679	転落	147	しつけ	40	家族内の人間関係	60
	皮膚症状	340	転倒	127	睡眠	58	近所との付き合い方	53
	感染症	152	衝突	101	トイレトレーニング	42	職場関係	8
	耳鼻咽喉症状	91	熱傷	33	入浴・清潔	30		

	⑤	件数	⑥	件数	⑦	件数	⑧	件数
	授乳	325 (5.7%)	予防接種	241 (4.2%)	性格、行動、社会性	218 (3.8%)	発育・発達	202 (3.5%)
主な内容	授乳方法	98	副反応	127	言うことを聞かない	66	発育の評価	76
	吐乳、溢乳	72	接種時期・方法	43	落ち着きがない	17	精神発達	32
	授乳と薬	53	効果	16	いじめる・いじめられる	17	言語発達	27
	乳汁を飲まない	31			赤ちゃん返り	12	運動発達	16
	卒乳	27			分離不安	11	体重増加不良	10

	⑨	件数	⑩	件数	⑪	件数	⑫	件数
	食事に関する問題	167 (2.9%)	教育	118 (2.1%)	虐待・虐待予防	31 (0.5%)	アレルギーに関する問題	24 (0.4%)
主な内容	離乳食・幼児食	83	幼稚園、保育園	51	親への支援	6	食物アレルギー	18
	飲まない、食べない	48	小学校	44	子どもへの虐待	6	気管支喘息	2
	食事のしつけ	29	中学校	15			花粉症	1
	離乳準備	10					アレルギー疾患	1
	食べすぎ	8						

	⑬	件数
	社会資源の活用	14 (0.2%)
主な内容	子育て支援	8